

**長期に飲み続けると認知
機能障害につながる治療薬
25 種類 <専門家監修>**

**みなさま「お薬手帳」お持
ちですか？「有効活用」
されていますか？**

25 年 **3** 月 (250315) 号で「**アルツハイマー病**から『**逃げ おゝせる人**』
は、**食事が違う**」記事と、**4** 月号で、**日本人の死因の第 1 位**が「**認知症**」に！。
両親から受け継いだ「持って生まれた免疫力」を「**維持・強化**するための食事の
とり方」、「日常の健康な過ごし方」などの記事をご紹介します。

今回 **5** 月号は、医院/薬店から処/販された「**薬**」の**服用の仕方**をご紹介します。
80 歳代にもなると医院で **10** 種程度の**薬**を飲むよう指示されている方も多いでし
ょう。せっかく、医院から有難く頂戴した「**薬**」は、**長期服用し続けると**、知ら
ぬ間に「**認知症**」にさせられてしまうという話です。「**認知症の発症リスク**」は、
近年欧米の研究で、**加齢**だけではなく「**薬の副作用**」也大いに関係している可能
性が明らかになった。**国内**で処方されている薬の「**添付文書**」を徹底精査され**長期
服用**によって「**認知症リスク**」が生じる**薬材**を洗い出した**貴重な資料**のご紹介です。
今後、健康で長生きするには、**添付文書**(細かい文字の長い説明文)と、「**お薬手帳**」
に**貼付**された「**薬材の明細**」を、読み取ることが必須の時代となってきたのです。

今月の文献(教えてくれた人)：(1) ①室井一辰先生／医療経済ジャーナリスト ②谷本哲也
先生／ナビタスクリニック川崎院長 ③眞鍋雄太先生／認知症専門医指導医、神奈川歯科
大学教授 (2) ポスト 2025 年 5 月 9・16 日合併号から「リスト」一部抜粋。

目 次

1. 注目が集まっている「**薬**」と「**認知症**」の関係・・・p 2
2. 日本人の主な**死因**(**認知症**が **1** 位に！)・・・p 2
3. 「**飲み続ける** と認知症リスクがある**薬・25 種**」・・・p 3
4. 薬剤の**副作用**で、**認知機能が低下**する場合も・・・p 5
5. **鎮痛薬のプレガバリン**はどうか・・・p 6
6. <**認知症**の人ってどれぐらいいるの？>・・・p 7
7. 【**高齢**の認知症患者に**女性が多い**のは？】・・・p 7

下記も併せてご参照ください (Ctrlkey + クリック)

- ・250415 号 [Web から拾った健康のお話](#) (日本人の死因 1 位は**認知症**)
- ・250315 号 [Web から拾った健康のお話](#) (**アルツハイマー病**から「逃げおゝせる人」は食事が違う！)
- ・231215 号 [Web...健康話 \(80/20 で**認知症**と 8 大疾患を予防\)](#)
- ・231015 号 [Web...健康話 \(【再び**認知症患者**】・・！\)](#)
- ・230915 号 [Web...健康話 \(**認知症**、悪魔と天使の食品\)](#)
- ・230515 号 [Web から拾った健康のお話 \(歯周病と**認知症**\)](#)



認知症の発症リスクついて、
最新の研究で**年齢**だけではなく、
「**薬の副作用**」も関係している
可能性が明らかになった。

ポスト(2025 年 5 月 9/16 日合併号)は、

国内で処方されている**薬**の添付文書を徹底精査。

長期服用によって**認知症リスク**が、生じる**薬**を洗い出している。

1. 注目が集まっている「**薬**」と「**認知症**」の関係 (教えてくれた人)

- ・ 室井一辰先生・医療経済ジャーナリスト、
- ・ 谷本哲也先生・ナビタスクリニック川崎医院長
- ・ 眞鍋雄太先生・認知症専門医・指導医・神奈川歯科大学教授

認知症患者は 2050 年には 586 万人に !

厚生労働省の統計 (2022 年) によると、日本の**認知症**患者は 443 万人。

2050 年には 586 万人に増えると予想されている。

今後は、医療分野での**認知症対策**がますます重要になる。

2. 日本人の主な死因 (認知症が 1 位に !)

(慶應大・米ワシントン大研究より)

	1990年	2005年	2021年
1位	脳卒中	脳卒中	アルツハイマー病 他の認知症
2位	虚血性心疾患	虚血性心疾患	脳卒中
3位	下気道感染症	下気道感染症	虚血性心疾患
4位	胃がん	アルツハイマー病 他の認知症	肺がん
5位	肺がん	肺がん	下気道感染症
6位	アルツハイマー病 他の認知症	胃がん	結腸・直腸がん
7位	結腸・直腸がん	結腸・直腸がん	胃がん
8位	肝硬変	肝臓がん	慢性腎臓病
9位	自傷	自傷	すい臓がん
10位	肝臓がん	慢性腎臓病	慢性閉塞性 肺疾患

左表は先月号でも

P5

に記載されています

※病気・死因の定義、算出方法は厚労省など国内統計と異なる

飲み続けると**認知機能障害**につながる「過活動膀胱の抗コリン薬」「脂質異常症のスタチン系薬」
「抗真菌薬のトリアゾール系抗真菌薬」など、治療薬 25 種類＜専門家監修＞

日本人の**主な死因**（慶應大・米ワシントン大研究より）

※病気・死因の定義・算出方法は厚労省の定義と異なる

そうしたなか、**近年注目**を集めているのが、

「**処方薬**」と「**認知症**」の関係だ。

医療経済ジャーナリストの室井一辰氏が云う

「**2010**年代以降、**医薬品と認知症の発症リスク**に関する研究が、**海外**を中心に発表されています。

2024年11月には、

英ノッティンガム大などの研究グループが、**頻尿**などの治療に使われる過活動膀胱**治療薬**のうち、一部の薬が、**認知症の発症**と関連していることを突き止め、**英**医学誌『BMJ Medicine』に発表しました」

研究グループが、**英国の認知症患者**約**17**万人のデータを解析した結果、過活動膀胱**治療薬**として、使われる**抗コリン薬**を、「**3**年以上（**長期**）服用していた人」は、「服用していなかった人」に比べ、**認知症の発症リスク**が**1.29**倍になるという。

3. 「**飲み続けると認知症リスクがある薬・25種**」

薬品名	分類 25種	販売名 25種 (一般名)	効果・効能	副作用
(1)過活動膀胱 治療薬	抗コリン薬 (胃腸薬 や かぜ薬)	ボラキス(オキシ ブチニン塩酸塩)	頻尿 、 尿意切迫感 、 尿失禁	認知機能 障害
(2)過活動膀胱 治療薬	抗コリン薬 (胃腸薬 や かぜ薬)	ベシケア(コハク 酸ソリフェナシ ン)	頻尿 、 尿意切迫感 、 切迫性尿失禁	認知機能 障害
(3)脂質異常症 治療薬	スタチン系薬	リポバス(シンバ スタチン)	高脂血症など	認知機能 障害
(4) 解熱・鎮痛 ・消炎薬	神経障害性 疼痛治療薬	リリカ(プレガバ リン)	神経障害性疼痛 など	認知障害
(5)抗真菌薬	トリアゾール系 抗真菌薬	ノクサフィル(ポ サコナゾール)	真菌症など	真菌症、 認知障害
(6)抗精神病薬	ドパミンD2受 容体部分作動薬	エビリファイ(ア リピプラ ゾール)	統合失調症	認知症
(7)抗てんかん 薬	抗てんかん薬	トピナ (トピラマート) ピムパット (ラコサミド)	てんかん患者の 部分発作	認知障害
(8) 認知症 治療 薬	コリンエステラ ーゼ阻害薬	レミニール (ガランタミン 臭化水素酸塩)	アルツハイマー型 認知症	アルツハイマ ー型認知症の 悪化

(9)パーキンソン病 治療薬	レオドバ製剤 レオドバ作用増強薬	スタレボ(レオドバカルビドバ水和物・エンタカポン)	パーキンソン病	認知症
(10)遅発性ジスキネジア治療薬	VMAT 2 阻害薬	ジスバル(バルベナジントシル酸塩)	遅発性ジスキネジア	認知障害
		ロズリートレク(エニトレクチニブ)	切除不能な進行再発の非小細胞肺がんなど	認知障害
	分子標的薬	スーテント(スニチニブリンゴ酸塩)	切除不能または転移性の腎細胞がんなど	認知障害
		オータイロ(レボトレクチニブ)	切除不能な進行再発の非小細胞肺がんなど	認知障害
		ローブレナ(ルルラチニブ)	切除不能な進行再発の非小細胞肺がん	認知障害
	PARP 阻害薬	ターゼナ(タラゾパリブトシル塩基)	前立腺がんなど	認知障害
		セジューラ(ニラパリブトシル酸塩水和物)	卵巣がん	認知障害
(11)抗がん剤	抗アンドロセン薬	イクスタンジ(エンザルタミド)	前立腺がん	認知障害
	その他	タスベリグ(タゼメトスタット臭化水素酸塩)	リンパ腫	認知障害
		オペプリム(ミトタン)	副腎がんなど	認知症
		ヴァイトラック	進行・再発の固形がん	認知障害
(12)制吐薬	NK1 受容体拮抗薬	イメンド(アプレピタント)	抗がん剤投与に伴う消化器症状	認知障害
(13)抗 HIV 薬	インテグラーゼ阻害薬	アイセントレス(ラルテグラビルカリウム)	HIV 感染症	認知障害

【註・上のリスト】PMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構の HP に掲載されている医療用医薬品の添付文書のうち、副作用として ①「認知機能障害」②「認知障害」③「認知症」④「認知症の悪化」の記載がある医療品から内服薬の先発医薬品を抽出し作成。薬は分類ごとに PMDA の HP 上で表示される順に記してある。上記①～④の分類はそれぞれ意味がある) ポスト 2025 年 5 月 9・16 日合併号から「リスト」一部抜粋。

4. 薬剤の副作用で、認知機能が低下する場合も

「副作用」
「認知症」
「認知障害」
「認知機能障害」

と、

似たような単語が並ぶが、
それぞれどう違うのか？
次ページでの説明です。

認知症専門医・指導医の眞鍋雄太先生（神奈川歯科大学教授）が解説する。

「一般的に、**脳**の記憶や判断力といった**認知機能**が低下した状態を『**認知機能障害**』『**認知障害**』といい、基本的には同じ意味です。

認知症では、これに加えて、徘徊や妄想など 行動や心理面の障害を伴い、これらを『**認知症**』症状といいます」

薬剤の副作用による**認知機能**の低下は、服用をやめれば回復するとされているが、問題は「**長期服用**」のケースだ。近年の研究で、**認知障害**や**認知機能障害**の副作用を持つ薬を**長期間**服用すると、**認知症**の発症リスクが高まるケースがあることが、わかってきたという。

谷本先生が云う。

「**抗コリン薬**もそのひとつ。日常的に用いられる**胃腸薬**や**かぜ薬**などにも含有していますが、症状が出た時に、一時的に服用するケースと異なり、**過活動膀胱**の治療は、長期に及ぶことが多い。

添付文書に記された副作用は『**認知機能障害**』ですが、長期間の服用で**認知機能障害**が続くことで、**認知症**の発症を早める一因になると考えられています」

脂質異常症治療薬や**鎮痛薬**も、**脳内**の神経細胞や**ホルモン**に悪影響も、副作用に「**認知症**」や「**認知機能障害**」などと、記されている**表中**の薬について、専門家に解説してもらった。

たとえば、**血中コレステロール値**などが、高い状態が続くことで診断される**脂質異常症**。その治療に用いられる「**スタチン系薬**」の副作用にも、**認知機能障害**が挙げられている。薬剤師の長澤育弘先生が云う。

「**シンバ・スタチン**など、**スタチン系薬**は**肝臓**での**コレステロール合成**を抑え、**悪玉**（LDL）**コレステロール**の量を低下させます。

なぜ、**認知機能障害**の副作用があるかは、まだ明らかになってはいませんが、実際に、**海外**では**多数**の報告があります。

考えられる理由としては、細胞膜やホルモンを生成する原料でもある
コレステロールが、薬の服用で減ることで、
脳内の神経細胞に悪影響を及ぼしたり、

また、脳内ホルモンが減るなどした結果として、
認知機能障害を、引き起こすことが挙げられます」

5. 鎮痛薬のプレガバリンはどうか

「リリカなどの商品名で、販売・処方されるプレガバリンは、
炎症を抑え、痛みを和らげる 他の鎮痛薬と違い、
神経細胞の異常な興奮を抑え痛みを和らげる薬。

その作用機序(薬が治療効果を及ぼす仕組み)から、脳の神経細胞の活動も
抑えられてしまうことで、認知障害の副作用が起きると推測されます」(同前)

実際、プレガバリンの継続的(長期)な服用で、
認知症の発症リスクが高まったとの研究結果がある。

前出・室井先生が云う。

「2023年1月、
スイスの薬学専門誌に掲載された台湾の医師らによる研究論文では、
台湾の国民健康保険データベースを用いて、約 20万6000人を
分析した結果は、

『プレガバリンを 90日以上使用していた人』は、
『使用していなかった人』に比べて、
認知症の発症リスクが 1.45 倍だったと、報告されています」

抗真菌薬のひとつである、
トリアゾール系抗真菌薬にも 認知障害の副作用が記載されていた。

「カビが原因となる 真菌感染症の薬で、
免疫不全の患者に使用されるケースが多い。

薬が脳に強く作用し、脳神経障害を起こす毒性が出た場合は、
認知機能に影響を及ぼす可能性があることが指摘されています」
(谷本先生)

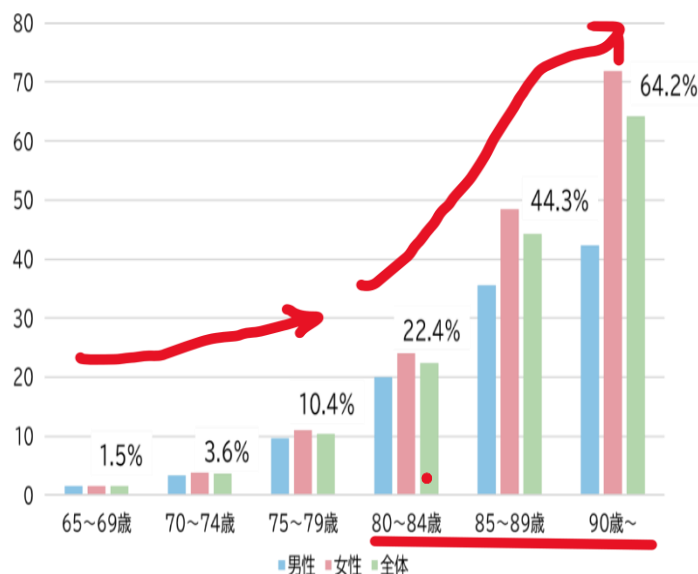
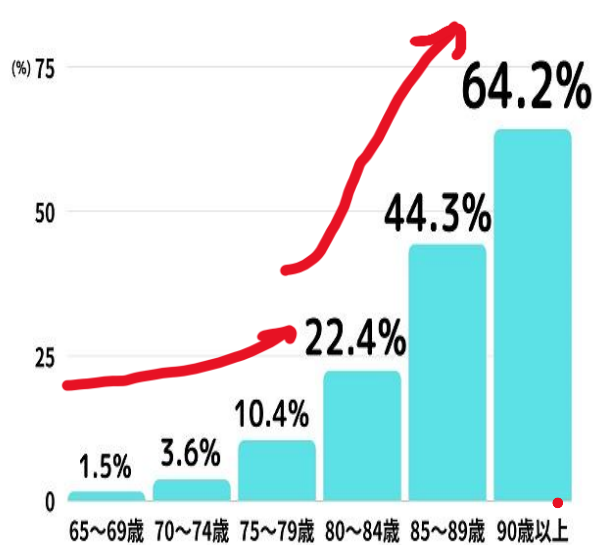
6. <認知症の人ってどれぐらいいるの?>

年齢階級別の認知症の有病率 (厚労省)

【左下図 国民全体】

【右下図 男・女の差異】

「認知症」という自覚がないまま **40 歳代**に入るので、**薬剤の混入状況を確認できる体制**づくりが必要。**75 歳代**に入ると**急激に顕在化**する。また**男女の差異**の大きさに驚きです。



7. 【高齢の認知症患者に女性が多いのは？】

(マイクロソフトの無料 **AI Copilot** <コパイロット> に問うてみた)

高齢の認知症患者に女性が多い 理由は何か？

1. 平均寿命の違い・・・なるほど！

女性は男性よりも平均寿命が長いため、**認知症**の発症リスクが高まります。**認知症**は加齢とともに増加するため、**高齢者**の割合が多い**女性**が患者数も多くなる。

2. 女性ホルモンの影響・・・なるほど！

女性ホルモンの一つである**エストロゲン**は、**脳**の神経細胞を保護する働きがあります。しかし、閉経後に**エストロゲン**の分泌が減少すると、**脳**の健康維持が難しくなり、**認知症**のリスクが高まる可能性があります。

3. 生活環境や社会的要因・・・なるほど！

女性は男性に比べて長年にわたり家事や育児を担うことが多く、社会的な刺激が少なくなりがちです。これが**脳**の**活性低下**につながり、**認知症**の発症リスクを高める可能性があります。(以上) **認知症**の予防には、**適度な運動**、**バランスの取れた食事**、**社会的交流**が重要とされています。気になることがあれば、ぜひ専門医に相談してみてください。

興味深いテーマですね！他にも知りたいことがあれば、気軽に聞いてください。

ご近所の **90 歳超**のおばさまが、いつも話されていたことを思い出します。おばさま曰く、私は市販薬を飲んだことがないし、お医者さんの服用薬も一切飲まないようにしています…と。自分は、その意味が、理解はできませんでした。しかし、今になれば、やっとわかったような気がします。それまで、風邪薬、胃腸薬のキャベジン…、常に飲んで薬に頼っていました。今回、常用のある風邪薬に添付されている「**注意書き**」を読むと、さすがに、“これだ！”という薬剤名を発見しました。自分に今ある、**少し？**痴呆気味の症状は、これも原因のひとつかな…と、大反省しています。やっぱり先人の言葉は大切だなァと、感じた次第です。

文責 本間悠三 サイバー塾彩 s@i